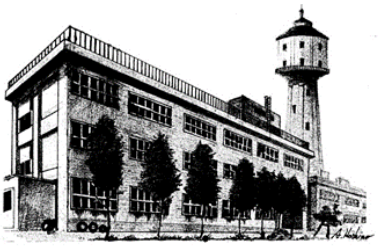
令和5年12月21日発行

新潟県立長岡聾学校 学校だより

はくちょう



〒940-0093 長岡市水道町 2-1-13 TEL 0258-32-1007

「やってみよう、ありがとう、なんとかなる、ありのままに」

校長　生方　清司

みなさんはどんな時に幸せを感じますか。

例えば、とても食べたくて仕方がなかった大好きな苺のショートケーキを食べた時ですか。欲しくてたまらなかったゲーム機が手に入った時ですか。テレビに出演している大好きな芸能人に会えた時ですか。それぞれ、幸せを感じる瞬間があると思います。

人間は、どのようなときに幸せを感じるのか。それを明らかにするために、慶應義塾大学大学院教授の前野隆司さんの研究グループはアンケート調査を行い、コンピュータによる因子分析を行いました。その結果、幸福感と深い相関関係がある、次の 4 つの因子（ある結果を成り立たせるもとになる要素。要因。）が得られたそうです。

●「やってみよう」因子（自己実現と成長の因子）

夢や目標ややりがいを持って、「本当になりたい自分」をめざして成長していくとき、人間は幸せを感じる。

●「ありがとう」因子（つながりと感謝の因子）

多様な人とつながりを持ち、人を喜ばせたり、人に親切にしたり、感謝したりすることが幸せをもたらす。

●「なんとかなる」因子（前向きと楽観の因子）

いつも前向きで、「自分のいいところも悪いところも受け入れる」という自己受容ができており、「どんなことがあっても何とかなるだろう」と感じる楽観的な人は、幸せになりやすい。

●「ありのままに」因子（独立と自分らしさの因子）

人目を気にせず、自分らしく生きていける人は、そうでない人と比べて幸福感を覚えやすい傾向がある。

「やってみよう、ありがとう、なんとかなる、ありのままに。」

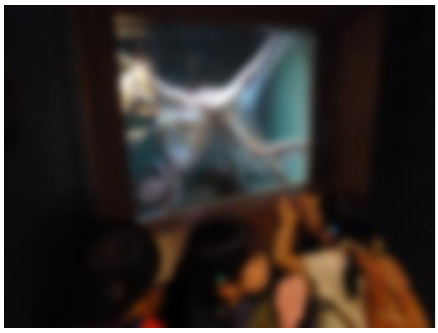
幸せというのは、いわば「気の持ちよう」なのかなあと、私は感じました。スポーツでも、本人やチームみんなのやる気がなければ勝てるわけがありません。たとえ少しでも、自分で行動を起こし、みんなとつながりをもつことで、個人も組織もどんどん幸せを感じることができそうな気がしませんか。

各学部の2学期の様子

幼稚部

2学期は、大きい行事がたくさん続きました。どの行事にもいきいきと活動に取り組む幼児の姿が見られました。特に、一番の思い出は秋の校外保育です。4年ぶりに新潟市水族館「マリンピア日本海」へ親子でバスに乗って行くことができました。事前学習から「どんなお魚がいるのかな？」「イルカはジャンプをするかな？」「マリントンネル楽しみだな」など各学級で話をしながらわくわくどきどきして期待に胸を膨らませていました。当日は、学級ごとに水槽をまわって、たくさんの魚や海の生物を見たり、イルカたちの素敵なショーを観たりして目をキラキラさせていました。帰りのバスの中では、自分が見たものを友達や先生方に嬉しそうに伝えていました。そして、この体験を基に、今年は「文化祭」の作品テーマを「わくわく水族館」とし、幼稚部オリジナルの水族館を作りました。自分が一番好きな水族館の生き物を楽しみながら作りました。

幼稚部は、体験したり見たりしたことを大切にしながら言葉の学習を進めています。心がたくさん動いた、この校外保育は子どもたちにとってかけがえのない時間になったことと思います。



小学部

2 学期は 9 月下旬の歩こう遠足に始まり、文化祭、お話し会と、大きな行事が目白押しでした。

歩こう遠足は、学校から千秋が原ふるさとの森に立ち寄り、学校に戻るという、日頃長い距離を歩く経験が少ないと思われる子どもたちには、大変だったかもしれません。しかし、全員完歩することができ、学校に到着したときは、みんな、充実感に満ちた表情をしていたのが印象的でした。

文化祭はそれぞれの学級が工夫を凝らして、自分たちの思いを表現した作品を展示しました。また、今年は体育館でステージ発表も行いました。披露したのは「よさこいソーラン」。1、2 年生の太鼓、演奏から始まり、3、4 年生がステージに上がる、1～4 年生の踊り、そして、最後に5、6 年生が加わって、全学年参加の力強い、迫力ある踊りとなりました。終了後は大きな拍手に包まれ、子どもたちも達成感にあふれた表情をしていました。

お話し会は、クイズ形式あり、劇を取り入れた発表ありと、各クラスの個性が感じられる発表でした。楽しく分かりやすい発表ができるように、どのクラスもたくさん練習を重ねてきました。本番では、見に来ている保護者の方々が楽しめる発表だったことはもちろん、子どもたちも楽しんで発表している様子がうかがえました。

中学部

2学期は、大きな行事がたくさんあり、保護者や地域の方々と関わったり、日頃の学習の成果を見ていただいたりする機会が多くありました。ここでは、3 学年合同で行った自立活動の授業を2つ紹介します。

理美容室体験

「理美容室体験」は、将来、一人で理美容室を利用する場面を想定して行いました。実際に補聴器や人工内耳を外すと、理美容室での困る場面がたくさん分かってきます。特に多くの生徒が困ったのは、シャンプーのときだったようです。顔にタオルをかけられてしまうと、話しかけられても気づくことができません。体験後、グループごとに話し合うと、様々な対応策が出てきました。今までの経験から、「マスクを外してもらう」「筆談をお願いする」など、店員さんにお願いしたいことはすぐに出てきました。今回の体験をとおして新たに、「聞こえないことを自分から店員さんに伝える」「希望の髪型の画像を自分で持っていく」「ドライヤーやシャンプーの時の要望は、自分から伝える」など**自分からできることがたくさんある**ことに気付くことができました。最後には、加賀先生から自らの失敗談や、「補聴器を片方だけ外して、半分ずつカットしてもらった」という体験のお話がありました。将来、一人でお店に行き、自分好みのカットをしてもらうときに、思い出して実行してほしいです。

雑談力

「雑談力」は、日頃の何気ない会話を続ける力の向上をめざして行いました。1回目は給食をテーマに5回以上、2回目は天気をテーマに7回以上続けることを目標に行いました。どの生徒も相手の言葉をしっかりと受け止め、共感しながら会話を続けることができました。同じ学部で活動していても、お互いの好みなど意外と知らないことがあり、雑談を楽しんでいる様子が見られました。目標やテーマを変えながら、今後も続けていきます。

高等部　産業技術科

2学期を振り返ると、進路に関わる活動や、学校行事、各種全国大会への参加、定期考査など、大変忙しい日々でしたが、生徒それぞれが精一杯頑張っている姿が印象的でした。

［進路に関わる活動］

3年生は、行事や大会で忙しいなかでも進路実現を第一に考え、それぞれが自分のやるべきことに集中し努力を積み重ねていました。1・2年生は職場体験等を通じて自分の適性や課題に気づき、卒業後の進路について考える機会となりました。

［学校行事］

文化祭学部企画は1・2年生が中心となって切り盛りしてしました。協力して準備を進める姿が大変頼もしく、成長を感じました。

［総合的な探究の時間］

多様性をテーマに学習を重ね、その一環として全校でのレクリエーションを企画・実施しました。小学部から高等部の、年齢も個性も多様な児童・生徒が一緒に活動できるのは、この学校の良さだと感じました。

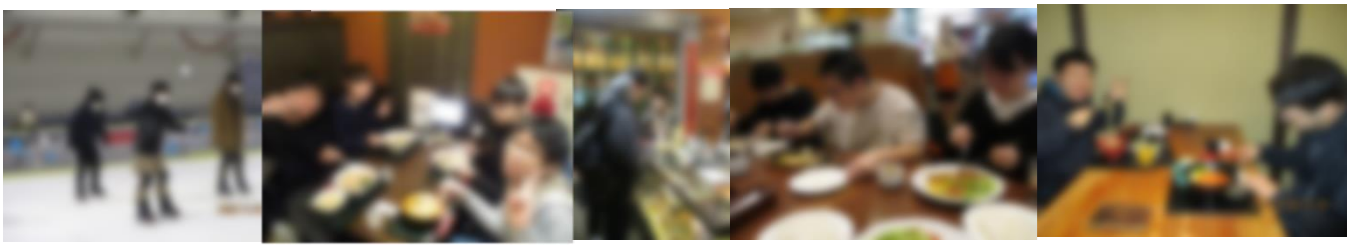
高等部　普通科

１１月29日の校外学習の様子を紹介します。昨年の校外学習でもアイススケートに出掛けましたが、「また行きたい」と生徒たちから要望があり、今年度もアイススケートを継続しました。昼食場所については昨年と変更し、各自食べたい場所を選び、3カ所に分かれて食事をしました。

昼食では、決められた予算（1500円以内）で食べられるメニューを考え、予算内でドリンクやデザートを頼みました。それぞれが好きなメニューを食べ、大満足の昼食となりました。

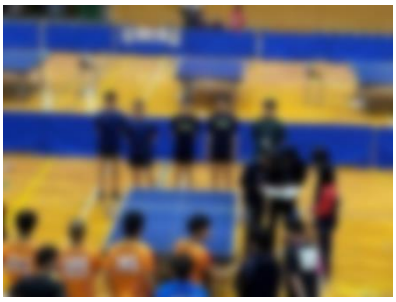
アイススケートは、職員の方からのワンポイントレッスンを受けてから滑り始めました。1年生はほとんどの生徒が初体験でしたが、終わる頃には転ばず移動できるようになっていました。2・3年生は、経験はあるものの、久しぶりの体験で緊張した様子でリンクに入っていきました。しかしすぐに勘を取り戻し、楽しんでいました。上手になってきた頃に終了時間となってしまいましたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。

毎年2学期の校外学習は、後援会体育活動補助費より助成していただいています。来年度も生徒たちが楽しめる活動を計画していきたいと思います。



全国聾学校卓球大会　愛知大会

１１月３日～５日の3日間、愛知県名古屋市にて開催された第60回記念全国聾学校卓球大会に高等部の5名が参加しました。今年度の北ろう体石川大会で全国大会への出場権を勝ち取りましたが、夏季休業中は高等部3年生は進路の準備があり、思うように練習することはできませんでした。時間がある時は部活動に向かい、自分の課題を意識しながら限られた時間の中で有効に練習しようする姿勢が見られました。また外部から指導していただいている方からアドバイスも受け入れ、レベルアップを図ろうとしていました。結果は一部男子団体（福井校と連合チーム）で3位入賞、一部女子団体で決勝トーナメント進出（ベスト6）と、日頃の練習の成果を発揮することができました。特に高等部3年生にとっては最後の大会でしたが、のびのびと純粋にゲームを楽しんでいるように感じました。来年の全国大会は兵庫県で行われます。今後も多くのご声援をよろしくお願いいたします。



学校の話題は Facebook にも掲載されています。
こちらもぜひご覧ください。